

2023年2月1日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所  
国立研究開発法人海洋研究開発機構  
国立大学法人北海道大学

アークス ツー

## 北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)公開講演会

### 『北極先住民が語る暮らしと文化 —地球温暖化の時代に生きる—』を 開催します

国立極地研究所(所長: なかむら たくじ 中村 卓司)が代表機関を、海洋研究開発機構(略称: JAMSTEC、理事長: やまと ひろゆき 大和 裕幸)および北海道大学(総長: ほうきん きよひろ 寶金 清博)が副代表機関を務める北極域研究加速プロジェクト(ArCS II、注1)では、2023年3月11日(土)に公開講演会『北極先住民が語る暮らしと文化 —地球温暖化の時代に生きる—』を開催します。



グリーンランドの犬ぞり



アラスカ・海沿いの先住民の村



現地住人と海鳥の調査

#### <開催概要>

第2回北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)公開講演会

『北極先住民が語る暮らしと文化 —地球温暖化の時代に生きる—』

日時 : 2023年3月11日(土) 13:00-16:00(開場 12:30)

会場 : 一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋2丁目1-2 学術総合センター 2F、  
<https://www.hit-u.ac.jp/hall/>)

主催 : 国立極地研究所、海洋研究開発機構、北海道大学

対象 : 一般

定員 : 200名(先着順)

申込方法 : ウェブサイトからの事前登録制・参加無料

(日本語) <https://www.nipr.ac.jp/arcs2/outreach/seminar2023-03-11/>

(英語) <https://www.nipr.ac.jp/arcs2/e/outreach/seminar2023-03-11/>

使用言語 : 日本語、英語 ※日英同時通訳あり

## <講演会概要>

北極には数千年以上前からイヌイットやサーミをはじめとした先住民が暮らしてきました。彼らは狩猟や遊牧などの独自の生活文化を築いています。第1部の講演では、北欧から来日した先住民が彼らの歴史や文化、暮らしを紹介します。自然と密接な暮らしをしている先住民は、急激に進む北極温暖化の影響を受けやすい存在です。北極温暖化による環境変化が暮らしに与える影響、新たに生まれた課題や恩恵についても紹介します。第2部のパネルディスカッションでは、北極温暖化が先住民社会にどのような影響を与えているのか、課題解決のためには何が必要なのかについて、北極をフィールドに活躍する若手研究者と先住民が多様な視点で議論します。

## <プログラム>

### 第1部(13:00-14:30):講演「北極先住民の暮らしと文化」

講演者①:ナバガナ・カーヴィギヤ・ソレンセン / Navarana K'avigak' Sørensen

(イヌイット文化伝承者)

グリーンランド北西部チューレ地区のウマナックに生まれた後、幼少期に北西部のカナックに移り住む。グリーンランドで翻訳者や通訳として働く傍ら、文化研究者、語り部、チューレの伝統的なドラムダンサーとしても活躍。様々な国の映画制作者とも長年にわたり仕事をし、カナダ国立映画制作庁のドキュメンタリー映画“Katinngat (Vanishing Point)”にも出演した。現在はデンマークに在住。

講演者②:ルネ・フェルハイム / Rune Fjellheim

(元サーミ評議会北極・環境ユニット長)

北極先住民サーミのコミュニティで育つ。学生時代から北極圏や先住民の問題に携わり、卒業後は、ノルウェー・サーミ議会、サーミ評議会、北極評議会などで政策立案や開発に従事。現在はコンサルタント会社を運営し、北極圏の問題を様々な角度から深く理解することを目指している。専門分野は、北極圏の政策課題、先住民の政策開発、多国間交渉、気候変動問題、サーミ問題。

### 第2部(14:50-16:00):パネルディスカッション「北極温暖化の時代にどう向き合うか」

モデレーター:西村 勇哉(NPO 法人ミラツク、株式会社エッセンス)

パネリスト:日下 稜(北海道大学)、石井 花織(東北大学)、

ナバガナ・カーヴィギヤ・ソレンセン、ルネ・フェルハイム

※登壇者の詳細は別添の公開講演会ちらしをご覧ください。

※プログラムは都合により変更する場合があります。

<イベント・北極ボードゲーム『The Arctic』体験会>

北極ボードゲーム『The Arctic』は、北極の研究者、先住民、開発業者などの役割になりきり、変わりゆく北極の今を知り、北極の未来を考えるゲームです。

(詳細はこちら)<https://www.nipr.ac.jp/arcs/boardgame/>

日 時 :2023年3月11日(土)11:00-11:45

会 場 :一橋講堂 学術総合センター 2F 中会議場 4

対 象 :小学校高学年～一般

※公開講演会に参加される方を対象としたイベントです。

定 員 :30名(先着順)

使用言語 :日本語、英語

申込方法 :公開講演会 参加登録フォームにて「北極ボードゲーム体験会への参加希望」を選択してください。参加無料。

<注>

注1 北極域研究加速プロジェクト(ArCS II:Arctic Challenge for Sustainability II、文部科学省環境技術等研究開発推進事業費補助金事業)は、2020年6月にスタートした、我が国の北極域研究のナショナルフラッグシッププロジェクトです。国立極地研究所、海洋研究開発機構、および北海道大学の3機関が中心となって実施します。

北極は地球温暖化の影響を最も大きく受けている地域の一つであり、北極域の自然環境の急激な変化は、日本を含めた地球全体の環境や人間社会に大きな影響を与え始めています。ArCS IIでは持続可能な社会の実現を目的として、北極域の環境変化の実態把握とプロセス解明、気象気候予測の高度化などの先進的な研究を推進します。また、北極の急激な環境変化が我が国を含む人間社会に与える影響を評価し、研究成果の社会実装を目指すとともに、北極における国際的なルール形成のための法政策的な対応の基礎となる科学的知見を国内外のステークホルダーに提供します。

詳細は北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)のウェブサイトをご覧ください。

(<https://www.nipr.ac.jp/arcs2/>)

<1 ページ目 写真提供>

左:ナバガナ・カーヴィギヤ・ソレンセン(イヌイット文化伝承者)

中央:石井 花織(東北大学 東北アジア研究センター)

右:日下 稜(北海道大学 低温科学研究所)

<別紙資料>

第2回公開講演会ちらし

お問い合わせ先

(報道について)

国立極地研究所 広報室

TEL: 042-512-0655 E-mail: kofositu@nipr.ac.jp

北海道大学社会共創部広報課

TEL: 011-706-2610 E-mail: jp-press@general.hokudai.ac.jp

(北極域研究加速プロジェクトに関して、講演会の内容について)

国立極地研究所 国際北極環境研究センター

疋田 陽子(ひきだ ようこ)／毛利 亮子(もうり あきこ)

TEL: 042-512-0927 E-mail: arcs2\_nipr@nipr.ac.jp

第2回

文部科学省環境技術等研究開発推進事業費補助金

北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)公開講演会

# 北極先住民が語る 暮らしと文化

## 地球温暖化の時代に生きる

イヌイトやサーミと呼ばれる北極先住民は、はるか昔から北極で暮らし、独自の文化を築いてきました。

地球温暖化の最前線の北極で、彼らの暮らしはどう変化しているのでしょうか。

北極をフィールドに活躍する若手研究者と共に語ります。

日時▶

2023年 **3月11日(土)**

13:00~16:00(12:30 開場)

参加無料 / 200名(事前申込制・先着順)

会場▶ **一橋講堂** 東京都千代田区一ツ橋2丁目1-2  
学術総合センター 2F

イベント

北極ボードゲーム  
体験会

同日

11:00~11:45

第1部

13:00~14:30

講演

## 北極先住民の暮らしと文化

ナバガナ・カーヴィギヤ・ソレンセン(イヌイト文化伝承者)

ルネ・フェルハイム(元サーミ評議会北極・環境ユニット長)

パネルディスカッション

第2部

14:50~16:00

## 北極温暖化の時代にどう向き合うか

モデレーター: 西村 勇也(NPO法人ミラツク、株式会社エッセンス)

パネリスト: 日下 稜(北海道大学)、石井 花織(東北大学)、

ナバガナ・カーヴィギヤ・ソレンセン、ルネ・フェルハイム

— 使用言語: 日本語・英語 日英同時通訳あり —

プログラムは都合により変更する場合があります

## 登壇者の詳細情報



Navarana Kavigak Serensen

### ナバガナ・カーヴィギヤ・ソレンセン

(イヌイット文化伝承者)

グリーンランド北西部チューレ地区のウマナックに生まれ、幼少期に北西部のカナックに移り住む。グリーンランドで翻訳者や通訳として働く傍ら、文化研究者、語り部、チューレの伝統的なドラマダンサーとしても活躍。様々な国の映画制作者とも長年にわたり仕事をし、カナダ国立映画制作庁のドキュメンタリー映画“Katinnat (Vanishing Point)”にも出演した。現在はデンマークに在住。



Rune Fjellheim

### ルネ・フェルハイム

(元サーミ評議会北極・環境ユニット長)

北極先住民サーミのコミュニティで育つ。学生時代から北極圏や先住民の問題に携わり、卒業後は、ノルウェー・サーミ議会、サーミ評議会、北極評議会などで政策立案や開発に従事。現在はコンサルタント会社を運営し、北極圏の問題を様々な角度から深く理解することを目指している。専門分野は、北極圏の政策課題、先住民の政策開発、多国間交渉、気候変動問題、サーミ問題。



Ryo Kusaka

### 日下 稜

(北海道大学  
低温科学研究所)

高校2年の夏にグリーンランド北西部にあるイヌイットの村を訪れて以降、度々同地を訪問し現地の人々と生活を共にする。現在はアザラシやキツネなどの毛皮衣服の性能評価や、犬ぞりの構造解析など、現地の人々が長年培ってきた知恵を実験的な手法を用いて明らかにする研究を行う。趣味はスキー、登山、旅行、毛皮の収集。



Kaori Ishii

### 石井 花織

(東北大学  
東北アジア研究センター)

社会や自然環境の変化により、廃棄物による汚染問題がどう現れ、人々はどう応答するのかを多角的に理解し、解決に向けて貢献することを目指している。アラスカの遠隔地の村々の廃棄物処理の問題について、問題の当事者である現地の人々の問題認識や、政府やNPOとの関係性に着目して研究を行ってきた。趣味は散歩、模様替え。

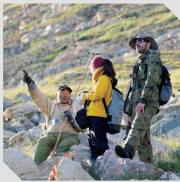


Yuya Nishimura

### 西村 勇哉

(NPO 法人ミラツク、  
株式会社エッセンス)

大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。セクター、職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築と、大手企業の事業創出支援、研究開発プロジェクト立ち上げの支援、未来潮流の探索などに取り組む。WEBメディア「esse-sense」ではArCS IIと連携して、北極の先端研究に取り組む研究者のインタビュー記事を発表中。



## 北極ボードゲーム『The Arctic』とは

<https://www.nipr.ac.jp/arcs/boardgame/>

北極の研究者、先住民、開発業者などの役割になりきって、変わりゆく北極の今を知り、北極の未来を考えるゲームです。



## 会場 一橋講堂

<https://www.hit-u.ac.jp/hall/accessjp.html>

東京都千代田区一ツ橋2丁目1-2 学術総合センター 2F

ACCESS 東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅 徒歩4分 / 東京メトロ東西線 竹橋駅 徒歩4分



## 申込・詳細

参加をご希望の方は、下記ウェブサイトよりお申し込みください。  
If you would like to participate, please register at the website below.

### ▶ 日本語

<https://www.nipr.ac.jp/arcs2/outreach/seminar2023-03-11/>

### ▶ English

<https://www.nipr.ac.jp/arcs2/e/outreach/seminar2023-03-11/>

2名以上の場合は、お手数ですが1名ずつお申し込みください。

※当イベントは新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、感染予防と流行拡大防止のための対策を実施して行います。



## お問い合わせ先

情報・システム研究機構 国立極地研究所 国際北極環境研究センター

E-mail [arcs2\\_nipr@nipr.ac.jp](mailto:arcs2_nipr@nipr.ac.jp)

写真提供：西村 基志（国立極地研究所）、ナバガナ・カーヴィギヤ・ソレンセン、日下 稜、石井 花織

